

平成29年10月18日
愛媛大学

農林水産省の委託プロジェクト研究

「人工知能未来農業創造プロジェクト」がスタートします！

～植物生体情報とAIによる太陽光植物工場における農産物生産の最適化～

農林水産省の委託プロジェクト研究「人工知能未来農業創造プロジェクト」、課題名「AIを活用した栽培・労務管理の最適化技術の開発」に、愛媛大学大学院農学研究科 高山弘太郎 准教授のプロジェクトが採択されました。

国立大学法人愛媛大学（愛媛県松山市、学長：大橋裕一）、PLANT DATA 株式会社（愛媛県松山市、代表取締役 CEO：北川寛人）、PwC あらた有限責任監査法人（東京都中央区、代表執行役：木村 浩一郎）、凸版印刷株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長：金子眞吾）、協和株式会社（大阪府高槻市、代表取締役：野澤重晴）、株式会社浅井農園（三重県津市、代表取締役：浅井雄一郎）、株式会社福井和郷（福井県大飯郡、代表取締役社長：山崎裕一）はコンソーシアムを組成し、農林水産省の平成29年度委託プロジェクト研究（マスコットネーム「ai tomato(あいとまと)」）をスタートします。

つきましては、取材くださいますようお願いいたします。

本件に関する問い合わせ先

愛媛大学大学院農学研究科食料生産学専攻

緑化環境工学研究室 准教授 高山 弘太郎

TEL：089-946-9805 Mail：takayama@agr.ehime-u.ac.jp

PLANT DATA 株式会社

代表取締役 北川 寛人

TEL：090-4367-6218 Mail：info@plantdata.net

※送付資料3枚（本紙を含む）

【研究の目的】

「植物生育を正確に把握する技術」と「作業者の見える化技術」を組み合わせ、平成33年度までに雇用労働時間の10%以上削減を達成します。

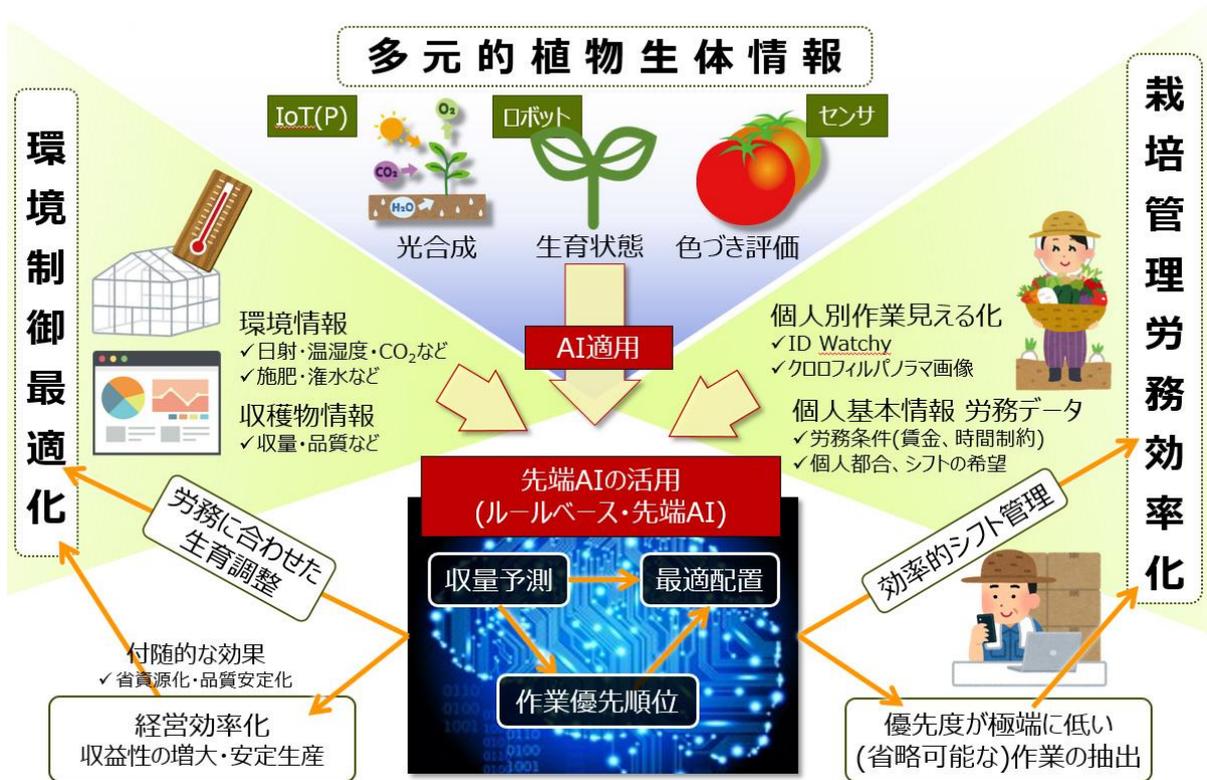
【研究の概要】

愛媛大学植物工場研究センター（仁科弘重センター長）が開発したIoT・センシング・ロボット技術を活用して『多元的植物生体情報』を取得し、経験や主観によらない正確な生育状態の把握を可能にします。

これに基づいて、栽培管理作業を正確に予測し、環境制御と労務の効率化を図ります。

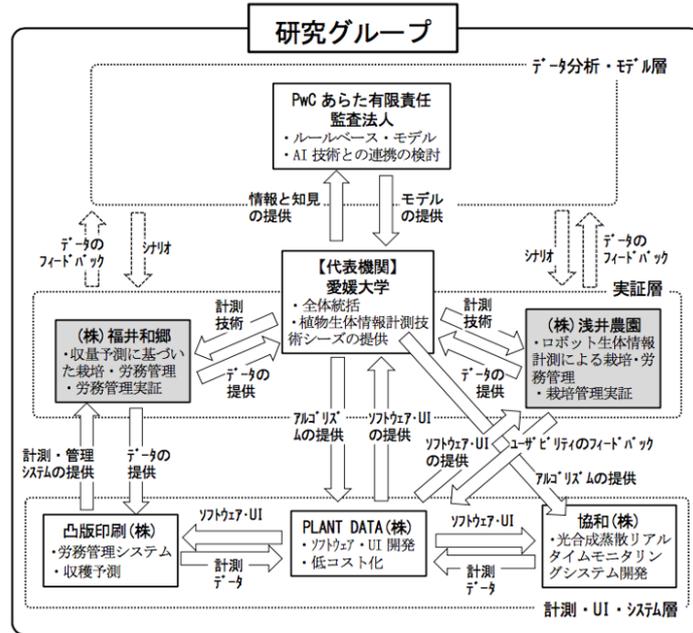
労務効率化については、凸版印刷の高精度労務評価技術を用い、作業の単純化・平準化・最適配置を実現します。

目的達成の中心となるのがAI技術です。植物生育を含めた大量のデータを解析し、人間を超えるレベルで効率良く目的を達成するための最適シナリオを提案します。



【実施体制】

各分野に実績を有する共同研究機関7機関、協力機関9機関でコンソーシアムを構成。研究開発と並行して生産フィールドにて実証試験を行い、スピード感を持って社会実装を目指します。



【参考：太陽光植物工場】



【参考：ロボットによるクロロフィル蛍光計測】

